

1 児の母の指導員生活

神奈川県佐藤（旧姓 経澤）です。いきなり「北海道から電話です」と、函館出身の私としては実家かと思いましたら、北海道北見高等技術専門学院の佐々木様さんからの電話でした。原稿の依頼で驚きましたが、ご夫婦そろって素敵で好きな方々なので、もちろん快く引き受けさせていただきました。



せっかくの機会ですので、現所属についてお話しさせていただきます。

神奈川県立産業技術短期大学校は横浜市旭区に位置し、相模鉄道二俣川駅から徒歩15分ほどのところにあります。当校は平成7年に開校し「生産技術科」「制御技術科」「電子技術科」「産業デザイン科」「情報技術科」の5科設置されていて、1学科定員40名の2学年で計400名の学生が在籍しています。

私が担当している産業デザイン科は、在学期間を4ブロックに分け1年後期から選択コース制を設定しています。コースは「グラフィックデザイン」「プロダクトデザイン」「スペースデザイン」と3分野になっていて、私はスペースデザインコースを担当しています。住空間や商業施設の設計・施工に必要な技術を習得することを目的としています。

訓練内容は多岐にわたっており、マーカーを使ってアイデアスケッチを描くことから、トンカチを持ってベニヤ板とたる木を釘で接合する等々、あらゆる作業を行います。口のきき方やこちらへの接し方を見ていると「全く今の若い者は！」と怒りたくなることもあるのですが、そんななか真剣に作業を行っている姿を見ると、「必ず就職させたい！」とってしまいます。

学生は2年後に就職することを頭に置いて、日々指導



学生作業風景

するようにしています。若い学生に対して、卒業生から聞いた話等をして具体性のある将来を考えてもらっています。また、就職して生き生きとした卒業生に会うと励みになりますし、この仕事をしていて本当によかったと思える瞬間でもあります。

時間が過ぎるのは本当に早いもので、私が職業訓練指導員になってから7年が経ちました。意気込みだけの私が何とか続けられたのも、ひとえに周囲の方々のおかげだと思っています。そして今現在、もうすぐ2歳になる子どもを保育園に預けて仕事をしています。朝の7時過ぎに子どもを預け、残業ができません家で授業準備をする日もありますが、今だけと割り切ってこの仕事を続けていきたいと思っています。



次のリレートークは栃木県立県央高等産業技術学校の渡辺須美子先生です。旧姓船橋さんは建築工学科卒で造形工学科の私とは科を超えて仲良くさせてもらっていました。いつもにこにこしてほんわかとした雰囲気的女性です。ではよろしくお祈いします。